



SAKATA_TOBISHIMA

2025年7月発行 | VOL.2

THE TOBISHIMA TIMES

編集・制作：島づくりディレクター 服部 帰蝶

連絡先：とびしま総合センター TEL 95-2001

こんにちは! 「THE TOBISHIMA TIMES」第2弾をお届けします。島に来てからは心身ともになかなか慌ただしい日々が続いていますが、植物や気候から季節を感じ、度々癒されながら活動しています。

消防団へ入団! いざ春季消防演習へ

消防団の一員となり、入団後最初の活動は、春季消防演習までの一連の活動でした。まず4月9~22日の春季火災予防運動期間のうちの17~22日は、午前7時に行う半鐘の打ち鳴らしを任せられました。23日は春季消防演習の予行として、団員達と共に本番当日の動きを覚えつつ、団車を使用した放水の仕方やホースの片づけ方などを学びます。そして24日の春季消防演習当日。火災発生を想定し、島内放送を合図に各地区から団車に乗った団員達が集まり放水。演習後、とびしま総合センターにて表彰式等が行われ、無事終了となりました。

島内で火災が発生した場合、本土に比べてかけつけられる消防隊員が少ないため、消防団員の迅速な行動が求められます。機材は慌てず扱えるようにし、放水時の水源がどこにあるのかを覚えるなど、今までよりも防災意識が高まりました。



雷雨の中の荷下ろし

船長判断でクレーン起動

普段は定期船到着後、定期航路の方がクレーンでコンテナを地上に降ろし、私を含めたセンター職員はコンテナ内の荷下ろしのお手伝いをしています。

ただこの日は近くに落雷が頻発。落雷の危険性からクレーンの起動の有無を見守っていたところ、船長の判断で起動となりました。島の周囲には高い場所がないため、激しく頻発する雷は珍しいようですが、適切な判断を下せるのも、豊富な知識と経験あってこそですね。



ジオパーク研修 in 飛島

飛島のジオサイトを巡る

今回は飛島内のジオパーク研修に参加しました。研修とは別に個人で島内散策を行っていたため事前調べはしていましたが、ガイドしていただいたことで、島内の逸話や漂流してきた海ゴミの活用例についてなど色々教えていただき、ガイドでないとわからない新たな知識が増えました。

最も印象的だったのは、現在でも石器や矢じりなどが発掘されることがあること。歴史を感じられる要素があることも、飛島の魅力の一つですね。



咲き誇る島の桜

長い冬を超え、春の訪れを知らせる

島内環境を知るべく、巡回している時に見かけた桜。なんと美しいことか、青空を背景に見事な花々が咲かせておりました。

島民の方曰く、例年は桜の花と葉が入り混じった形で咲くため、花のみでの満開状態は珍しいとのこと。花々を楽しみにしている島民にとっては、春の訪れを感じさせ、晴れやかな気持ちになったのではないかと思います。

桜の撮影日の平均気温が12℃程度だったため、まだまだ長袖が手放せない日々が続いておりましたが、気温に反して自然が見せる島の華やかな一面から、温かみを感じた日になりました。

